

かながわ人生100歳時代ネットワーク  
「地域共生社会」実現へのご提案

# LINEを使った 安否通知システム



2週間お試し  
テストサイト

内閣官房 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会員  
特定非営利活動法人エンリッチ

代表 紺野 功

# 現代の社会問題



超高齢化社会を迎え、人との関わりの減少による

1. 孤独・孤立と単身高齢者の増加
2. 地域コミュニティの減少
3. 孤独死の増加と長期未発見
4. ひきこもり
5. 地域社会からの孤立

内閣官房による孤独・孤立対策官民連携プラットフォームでは、「人とのつながり」が重要であると取組を開始しました。

2024年4月より孤独・孤立対策推進法が施行されました。



孤独・孤立対策  
官民連携プラットフォーム

内閣官房  
孤独孤立対策担当室  
発表の資料より抜粋

**孤独・孤立対策の重点計画 改定のポイント** 令和4年12月26日 孤独・孤立対策推進会議決定

**孤独・孤立対策の基本理念等を追加**

- ✓ 今後、**単身世帯や単身高齢世帯の増加**が見込まれる中で、**孤独・孤立の問題の深刻化が懸念**される。新型コロナウイルス感染拡大が収束したとしても、**社会に内在する孤独・孤立の問題に対し、政府として必要な施策を着実に実施**
- ✓ **人と人との「つながり」を実感できることは、孤独・孤立の問題の解消にとどまらず、社会関係資本の充実に資する**という考えの下で、施策を推進  
※ 国連の「世界幸福度報告」によると、近年、我が国は「社会的支援（困った時にいつでも頼れる友人や親戚がいる）」など社会関係資本に関連する指標がG7の中で下位グループに位置している
- ✓ **日常生活の場である地域など社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れ、すべての人のために、広く多様な主体が関わりながら、人と人との「つながり」をそれぞれの選択の下で緩やかに築けるような社会環境づくりを目指す**

**孤独・孤立対策の更なる推進・強化**

(1) 孤独・孤立に至っても**支援を求める声を上げやすい社会**とする

- ✓ 孤独・孤立の実態把握を推進（孤独・孤立の実態把握、こども・若者の行動・意識に関する実態把握、在外邦人の実態把握等）
- ✓ 令和3年実態調査結果を踏まえ、「**予防**」の観点からの施策を推進
- ✓ 孤独・孤立への理解や機運醸成のため、**周りの方が当事者への気づきや対処ができるための環境整備等**を推進  
孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム分科会の検討成果に沿って具体的な取組を進める（声も上げやすい声もかけやすい環境整備等）

(2) 状況に合わせた切れ目のない**相談支援**につなげる

- ✓ 一体的な相談支援体制、相談と支援をつなぐ体制の本格実施に向けた環境整備（取組の推進）

**(3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う**

日常生活の場である地域など社会のあらゆる分野に緩やかに「つながり」を築ける多様な「居場所」の「見える化」、市民の自主的な活動やボランティア活動を推進（地域における孤独・孤立対策のモデル構築、この取組を行うための取組方法や交流方法等の検討、スポーツ施設がアクセスできる居場所の創出等）

(4) 孤独・孤立対策に取り組む**NPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化**する

- ✓ 地方における**連携プラットフォームの形成に向けた環境整備（「水平型連携」を目指す**）（地域単位の官民連携プラットフォームの整備の推進）
- ✓ 官・民の連携基盤の形成に当たって、**官・民の取組の裾野を広げ、連携に参画する民の主体の多元化を図る**（民間企業が事業活動を通じて孤独・孤立対策に資する取組を行う形での連携に参画を推進（孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの運営）

**孤独・孤立対策推進法の概要**

**趣旨**

近時における社会の変化を踏まえ、日常生活若しくは社会生活において孤独を覚えることにより、又は社会から孤立していることにより心身に有害な影響を受けている状態にある者への支援等に関する取組について、その基本理念、国等の責務、施策の基本となる事項及び孤独・孤立対策推進本部の設置等について定める。

→ 「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」を目指す

**1. 基本理念**

孤独・孤立対策（孤独・孤立の状態となることの予防、孤独・孤立の状態にある者への迅速かつ適切な支援その他孤独・孤立の状態から脱却することに資する取組）について、次の事項を基本理念として定める。

① 孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において何人にも生じ得るものであり、社会のあらゆる分野において孤独・孤立対策の推進を図ることが重要であること。

② 当事者等に対しては、その意向に沿って当事者等が社会及び他者との関わりを持つことにより孤独・孤立の状態から脱却して日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるようになることを目標として、必要な支援が行われること。

③ 孤独・孤立の状態にある者への支援等に関する調査研究の推進

**2. 国等の責務**

孤独・孤立対策に関し、国・地方公共団体の責務、国民の理解・協力、関係者の連携・協力等を規定する。

**3. 基本的施策**

- ・ 孤独・孤立対策の重点計画の作成
- ・ 孤独・孤立対策に関する国民の理解の増進、多様な主体の自主的活動に資する啓発
- ・ 相談支援（当事者等からの相談に応じ、必要な助言等の支援）の推進
- ・ 関係者（国、地方公共団体、当事者等への支援を行う者等）の連携・協働の促進

・ 地方公共団体及び当事者等への支援を行う者に対する支援

・ 孤独・孤立の状態にある者の実態等に関する調査研究の推進

**4. 相談支援体制**

- ・ 内閣府に特別の機関として、孤独・孤立対策推進本部（重点計画の作成等）を置く。
- ・ 地方公共団体は、関係機関等により構成され、必要な情報交換及び支援内容に関する協議を行う孤独・孤立対策地域協議会を置くよう努める。
- ・ 協議会の事務に従事する者等に係る秘密保持義務及び罰則規定を設ける。

旅行期日 令和6年4月1日

# 注目ポイント

- ・ **見守り・交流の場を確保し人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う**
- ・ **孤独・孤立に悩む人を取り残させない、人との「つながり」が生まれる社会を目指す**
- ・ **地方公共団体及び当事者への支援を行う者に対する支援**

**孤独・孤立対策**

**背景**

- 社会環境の変化により人と人との「つながり」が希薄化し、コロナ禍により**孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化**  
※ 我が国は、社会関係資本に関連する指標（社会的支援（困った時にいつでも頼れる友人や親戚がいる）」等）がG7の中で下位に位置する（国連「世界幸福度報告」）
- 今後、**単身世帯や単身高齢世帯の増加**が見込まれる中、**孤独・孤立の問題の深刻化が懸念**  
→ コロナ禍が収束したとしても、社会に内在する孤独・孤立の問題に対し、政府として必要な施策を着実に実施

**孤独・孤立対策**

**<基本理念>**

(1) 人生のあらゆる場面で誰にも起こり得る孤独・孤立の問題に、**社会全体で対応**（孤独・孤立対策はすべての国民が対象）

(2) **当事者や家族等の立場**によって、施策を推進

(3) 当事者や家族等が信頼できる人と**対等につながり、人と人との「つながり」を実感できる**施策を推進（ウェルビーイングの向上、社会関係資本の充実も）  
**社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れ、人と人との「つながり」をそれぞれの選択の下で緩やかに築ける社会環境づくり**  
→ 「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」を目指す

**<基本方針>** → 具体的施策は重点計画に記載

(1) 孤独・孤立に至っても**支援を求める声を上げやすい社会**とする

- ① 孤独・孤立の実態把握、「**予防**」の観点からの施策を推進
- ② 支援情報の発信（ウェブサイト等） ③ 声を上げやすい声もかけやすい環境整備

(2) 状況に合わせた切れ目のない**相談支援**につなげる

- ① 一体的な相談支援体制の整備（取組の推進） ② 相談と支援をつなぐ体制の本格実施に向けた環境整備（取組の推進）

**(3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくり**

- ① 居場所の確保（日々の様々な分野で緩やかに「つながり」を築ける多様な「居場所」づくり等）のアウトリーチ型支援 ② 「社会的処方」の活用 ③ 地域における包括的支援体制

(4) 孤独・孤立対策に取り組む**NPO等の活動を支援、官・民・NPO等の連携を強化**

- ① NPO等の活動への支援（各年度継続的に支援） ② NPO等との対話の推進
- ③ 連携の基盤となるプラットフォームの形成（国・地方官民連携プラットフォーム）
- ④ 行政における孤独・孤立対策の推進体制の整備

→ 孤独・孤立対策を本格的に段階へ進めていくため、国・地方公共団体における安定的・継続的な推進体制構築に係る法整備を行う

# 社会問題である孤独・孤立対策について



前向きな自治体でも、認識者による講演会や自治会・町会及び地域活動団体や福祉関係者への勉強会や周知などの啓蒙が主体で「**具体的な施策**」がないのが現状です。

最大の課題は、希薄になった現代社会の人間関係において地域や近隣とどのようにつながるか。

**人と人とのつながりを実感できる地域づくり**

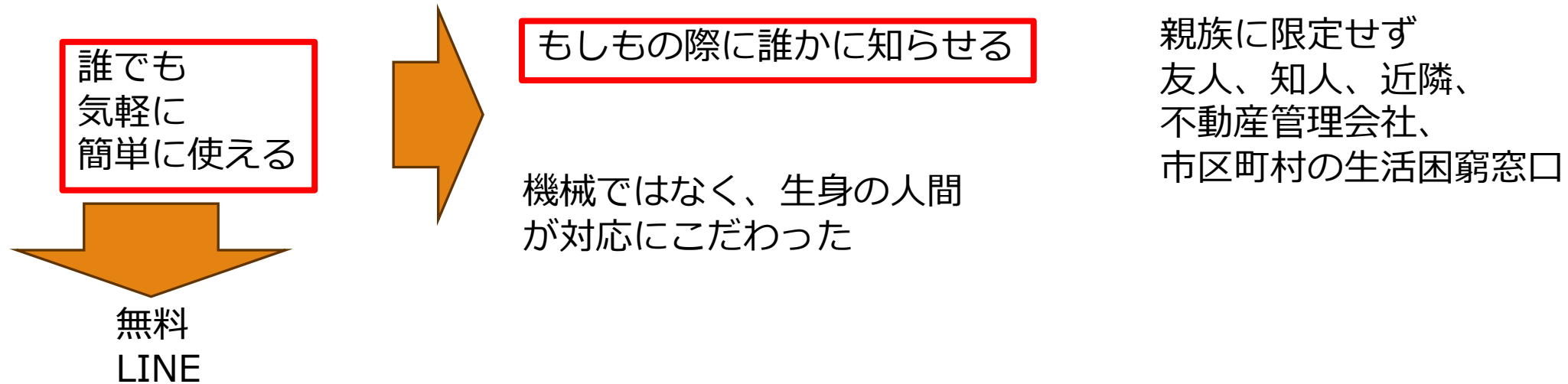


**これにエンリッチの「安否通知システム」が対応します。**

単なる見守りサービスではない理由

昔は近所に世話焼きなおばさんがいたが、今は踏み込んだ関係が望まれない社会になった。だから、ICTを活用し程良い距離感でつながる方法が必要。

# 2015年に51歳実弟の孤独死を機に 2018年NPO法人を設立し 現役世代を対象とした見守りサービスを開始



この取り組み自体が実証実験：社会のニーズと孤立孤独死への不安マーケットのサーチ

※現役世代の見守りはなく、死後発見まで時間が掛かるのはこの年代

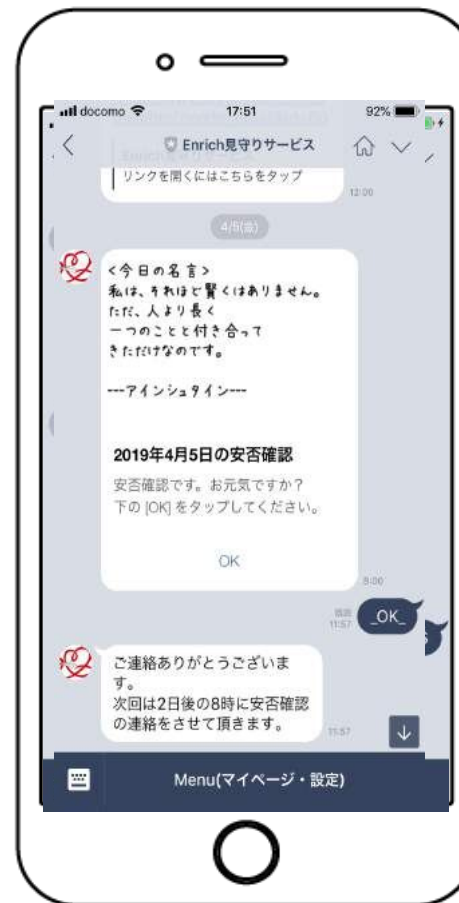
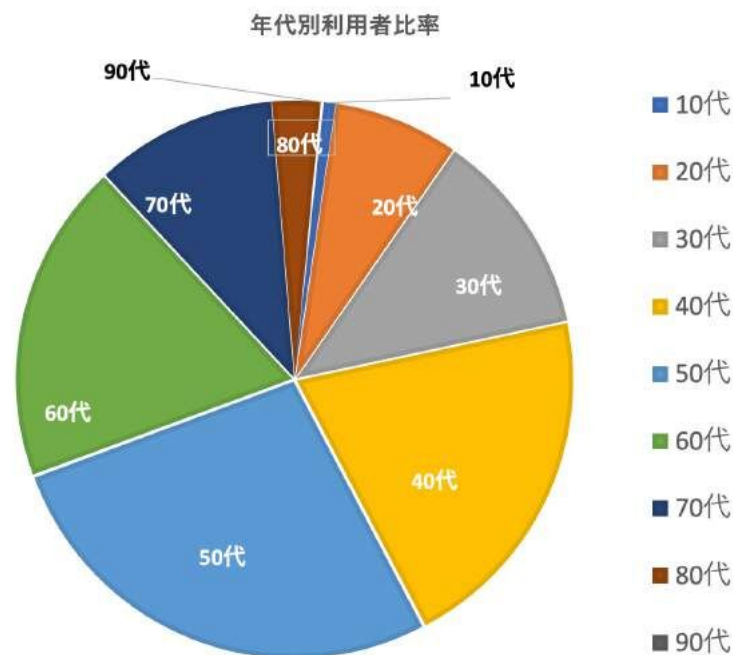
# サービスは進化を続け3つを提供中

	見守りサービス2018年～	つながりサービス2019年～	安否通知サービス2022年～
対象人数	利用当事者1名	グループ(2名～最大500名)	1名～数百名以上
安否確認通知 間隔	1日から3日及び5, 30日。毎週1回、隔週1回	1回の任意の時間帯	1回の任意の時間帯
安否確認者	エンリッチ	グループ参加者同士	※チームの管理者
安否未確認の 場合	安否確認がタップされない場合は、24時間後に再送。更に3時間経過しても確認できない場合直接電話	23時間後に未確認者を通知。グループ参加者内で対応	安否確認がタップされない場合は、24時間後に再送。更に3時間経過しても確認できない場合 <b>チームの管理者へ通知</b>
個人情報の登録	直接電話及び一部自治体との見守り協定による訪問のため必須	グループ間で見守りのため不要	チームの構成によって任意に設定可能。個人間では不要
サービス提供 方法	LINEの友だち登録	LINEのグループに見守りサービスを招待	※外部LINEのアカウントにシステム提供



# LINEを使った見守りサービス

2018年11月サービス開始  
LINEを使った単身者への見守りサービスを開始し  
15歳から105歳まで、延べ14,000人以上が登録



**LINEのプッシュ通知で安否確認!**  
あなたのもしものに備えて、LINEによる安否確認を行い  
不慮の際には、あなたと登録された近親者に  
連絡することで事故の早期発見と  
最悪の事態を防止します。

ケース: 2日間隔通知



# 見守りサービス利用者の声

## とかく家族といいますが

広島県 42歳 女性

徒歩数分のところに実家があり、親はいますが、もともと幼少から酷く虐待されていたため(今の病気もそれが原因で発症)まったく関わりはありません。自動送信だとしても、毎日送られてくるメッセージでなんとか気持ちを保つことが出来てありがたいです。自治体や民生委員も、とかく「家族に連絡を」と言いますが、その家族がいなかったりまともに機能していなかったりする弱者が大勢いる現実をもっと理解してほしいです。親もどんどん老化しています。いずれは死にます。子どもがいない人間は見殺しでしょうか。

## 母を自宅介護、残された親族に

広島県 49歳 女性

今年50歳になる身ですが、持病を抱え、また、要介護5の全介助、寝たきり、胃ろうをしている母を自宅介護しています。母と2人暮らしです。私に何かあった時、私だけが死んでしまうのも、勿論残された親族に迷惑をかけますが、私が自宅で急逝してしまうと全く何も出来ない母まで巻き添えにしまいます。それが不安で日々送っていましたが、ネットでこちらの事を知り、抱えていた不安の一つが防げるのではないかと登録させて頂きました。

## 周りに迷惑をかけたくない

高知県 41歳 男性

10数年前にパニック障害になり、その後も色々体調不良が続いてる現在です、そういうこともあり、まわりの友達とも疎遠になり、家族ですら出ていけと言われ、一人で暮らしています。よくニュースで孤独死の話もみかけ、数ヶ月も発見されず、まわりに迷惑をかけたくないと思い登録させて頂きました。

## メンタルの不調を抱えて

兵庫県 20歳 女性

家出のような形で一人暮らしをしています。自分は若いから死は遠い存在だとなんとなく思っていました。でも、若い人でも突然死の可能性があって、それで一人暮らしをしていたら中々気づいて貰えないと言う話を聞きました。私の業種は事前報告なしに唐突に辞めてしまう人が多く、会社に家族情報を伝えていないので、私が急に出勤しなくなってもだれにも気づいてもらえないんじゃないかという不安から、たまたま見つけたこのサイトに登録しました。近所の人とも全くと言っていいほど付き合いがないような場所ですごしているのでもとても使いやすいサービスです。3日に1回連絡がくるのがとても嬉しいです。私がメンタルの不調を抱えているのもあって死にたくなることが多いのですが、「お元気ですか？」とLINEが入るだけで頑張ろうと思えます。安否確認という意味合いもありますが、それ以上に私の安否を確認してくれる人がいる、ということが心の支えになっています。

その他の利用者の投稿は

<https://www.enrich.tokyo/voice.html>



# グループで使うつながりサービス

安否確認以外の地域コミュニティツールとしても活用

グループ内で、つながることで

1. ちょっとした異変に気付き易い  
最近いつもより対応が遅いけど大丈夫？
2. 何気ない会話によってつながりを実感  
安否確認以外にコミュニティとして顔を合わせなくとも近況などのやり取りでつながりを維持、リアルの関係へ
3. 災害や防災情報などグループ内で配信  
日頃使うツールとして利用されているものに大切なお知らせや情報を配信することで見逃しが無い  
また、地域の居場所情報配信によって孤立者を居場所へ誘導
4. もしもの際の早期発見と対応  
地域で利用することで、異変に対して即行動ができる



## LINEのプッシュ通知で安否確認!

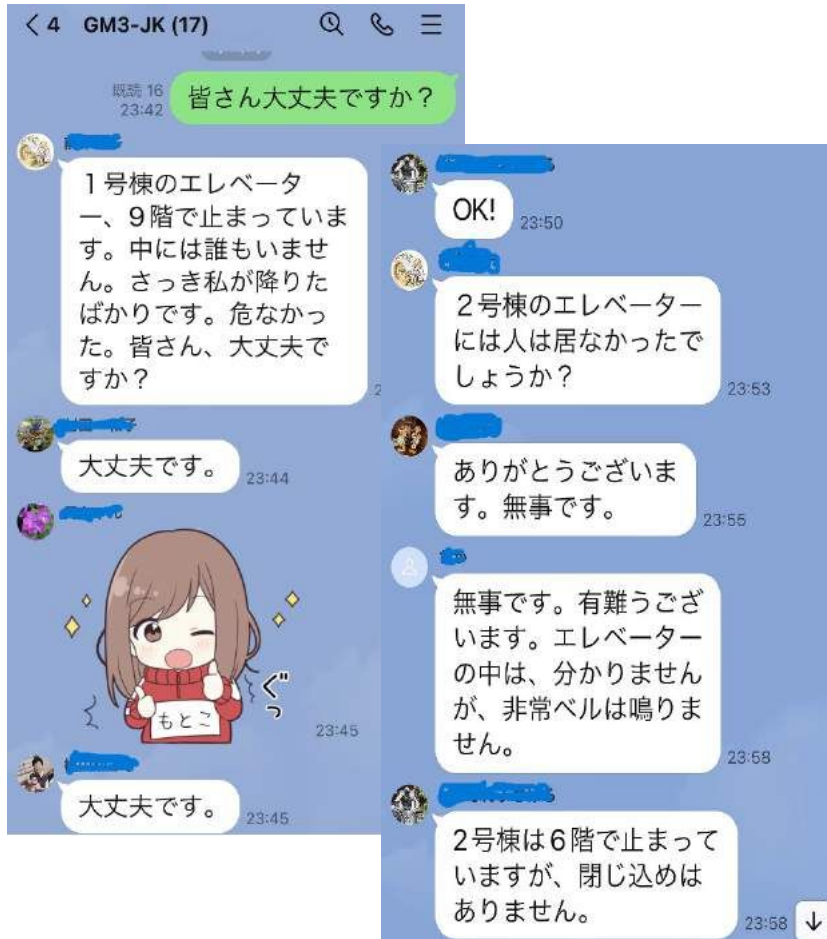
あなたの大切な方々をグループにし、そのグループへの安否確認送信でグループ内で無事を確認しあえます。

ケース: 3日間隔通知



# つながりサービス利用者の声

## 多摩市集合住宅高齢化対策委員会の活用例



地震が23時36分に発生しました。その数分後、23時42分には仲間同士の安否確認や情報の交換が始まっております。

この安否確認サービスには16人が参加していますが、皆さんあつと言う間にご自分の様子や知りえた情報を送ってくれました。

みんな情報を欲しがっています。もしもこの時、「ドアが開かなくなった」「戸棚が倒れた」などという声があれば、連絡しあって駆けつけるでしょう。

深夜、仲間のこうした声掛けがあり、ホッとして床に就くことができました

### Mさん（70代、女性）

はじめはOKを押した後も何回か見て、まだ押していない人の事を心配したような事が有りましたが、最近は自分がOKを押すとそれだけで安心して、皆さんの状況を見る事もなく、過ごす日々です（反省・・・）。

地震の時など状況等が書きこまれていて、良かったと思いました。

### Sさん（70代、女性）

いつも大変助かっています。たまに連絡を忘れてしまい、慌てることもありましたが……。見守られているという安心感と、皆さん大丈夫ね、との安心感とで、一日をゆったり過ごさせています。

### Kさん（80代、女性）

とても安心できます。OKを出さない方が時々おいでですが「どうしたのかしら？」と気になります。手軽だしみんなに薦めたいシステムだと思います。

### Fさん（70代、女性）

3日に一度「お元気ですか」という言葉で届く安否確認。

ただ返事はOKをタップするだけ。一緒に届く今日の名言もさらっとよむだけ、ともに生活の活力となっています。

# <安否通知サービス提供の背景>

無料の見守りサービスは、利用者のハードルを下げ誰でも簡単に使えるものとして利用者は拡大しています。

しかし無料提供の為、真剣さに欠け安易に登録する方も多く、事前にエンリッチの電話番号を登録していないので95%の方が電話に出ない。LINEのメッセージにも70%は返事なし。

## 1.利用者

- 軽い気持ちで登録しており頻繁に忘れる。
  - 近親者にサービス利用を伝えていない。
  - 生活困窮、生活保護受給で自治体の窓口を登録、誰も頼れる人がいない。
- 

## 2.近親者

- 知らない番号からの電話に出ない。
- 利用者の住所や管理人(管理会社)を知らない。
- 高齢の親の場合、息子はまだ若い、詐欺や不審に思われる。

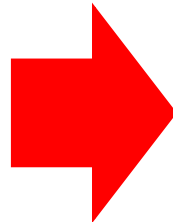
※昨今、個人情報漏洩や詐欺や強盗などが増え、エンリッチ利用者の個人情報の拡大がリスクに  
そこで個人利用では個人情報の登録を不要とし、もしもの時だけ自らが選択した方に通知を送る「安否通知サービス」を開発しました。

# 地域で互いに支え合える仕組みを提供

## 安否通知サービス

2022年10月サービス開始、**見守りサービス**を進化させ個人情報なしで親族や地域社会で利用できるものとして1,012人が活用し、民間や自治体・社会福祉協議会へ提供開始

- 単身者と離れた親族
- 町会・自治会と単身者
- 民生委員と単身者

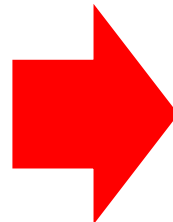


- 一定の距離を保ちながら、もしもの際に駆け付ける関係構築
- 地域で地域の単身者を支える

## つながりサービス

2019年7月サービス開始、グループLINEでつながる親族や単身高齢者同士など416グループ948人が互いに見守り支え合い中

- 集合住宅の単身者同士
- 趣味の仲間やサークル
- 自治会



- 互いにつながる安心感と支え合える関係構築
- 地域で互いを気遣い支えあう
- 地域の人とのつながりを作る

# 提案内容

ご用意頂いたLINEのアカウントに対して、「安否通知システム」を提供します。



自治体のサービスとして地域の利用者に提供。 地域住民は無償で利用



1. もしもの時の早期発見
2. 地域の支え合い関係の構築
3. 離れた疎遠な親族間にデジタル時代の新しいつながりの形を提供



人とのつながりで地域コミュニティの創出へ



# 導入事例

## 千葉県我孫子市

### 導入前の状況と課題

- ・ 孤立死に係る通報が頻回にあり、対応に苦慮している。
- ・ 残念ながら亡くなった状態で発見される方の多くは、他者との繋がりが希薄であり、対策が必要と感じていること。
- ・ 家族からも、一人暮らしの高齢者等の見守りの仕組みについての問い合わせが多く、情報をまとめていたこともあり、関心があった。

### 期待すること

- ・ 一人暮らしの高齢者等やその家族の安心感が高まり、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける地域社会を実現する、地域包括ケアシステムの構築につながる。
- ・ 見守り組織等の関心が高まり、地域活動が活性化する。

### 我孫子市公式ページ

<https://www.city.abiko.chiba.jp/kenko/mimamori/mimamorishien.html>



## 北海道夕張郡栗山町社会福祉協議会

### 導入前の状況と課題

- ・ 地域の担い手が減少する中、スマホ講座の参加される高齢者も徐々に増えており、将来的な高齢者のスマホ保有率の向上も加味し次年度は使い方だけでなく、スマホを活用した地域サービスを検討してきた。

### 期待すること

- ・ 新型コロナなどの弊害が、社協及びボランティアの訪問活動やボランティア活動の疲弊を招き、今も積極的に活動できない人やフレイル傾向になる方も懸念されることから、そういった方にもスマホを通じて地域や社協と関わるきっかけになると考えている。
- ・ 遠方の家族に代わって安否確認をすることで、ケアラー支援の新たな取り組みとして期待できると考えている。



# 運用イメージ



孤独・孤立 対策  
官民連携プラットフォーム

自治体

仮称〇〇市見守りサービス専用アカウント

LINE公式アカウント取得

自治体の役割：プラットフォームとして地域に提供

周知のための広報：市区町村の公式LINE、公式ホームページ、広報誌掲載並びに  
社会福祉協議会や福祉関係との連携構築。協力団体への説明会開催

admin管理者として管理画面を提供しますので、利用状況の把握と利用者への安否確認以外の  
防災・災害避難情報や市区町村からの重要告知などの送信（任意）

## 協力団体への説明会を開催し運用を指導（エンリッチによる）

協力団体

社会福祉協議会

自治会・町会

地区社会福祉協議会

老人クラブ

民生委員

民間団体・NPO

地域包括支援センター

社会福祉法人・生活コーディネータ

単身者への訴求

親族・近親者を管理者に招待

身寄りのない単身者の場合は、  
地域や単身者同士または  
協力団体が受け皿となり対応

※これらへの周知活動を通じても新しいつながりが生まれる

# <特徴>



※このシステムをご用意頂いたLINEアカウントに提供いたします。  
マイページのトップイメージの差し替えと利用規約のご用意で、自治体のサービスとして提供します。

- 1.自治体などがLINEアカウントを取得しプラットフォームとしてサービス公開
- 2.社会福祉協議会、地域包括ケアセンターや町会、集合住宅の自治会などを通じて単身者への周知
- 3.離れた親族がいる単身者は親族とつながり、親族や身寄りが居ない方は、福祉関連の職員や自治体、または地域の団体やコミュニティとつながる
- 4.地域住民はそれぞれの状況に応じて、離れた親族や友人など誰かとつながれる。（利用者無料）

**※この提案は、委託事業ではなく地域住民のための自治体が主体となる連携事業です**





孤独・孤立 対策  
官民連携プラットフォーム

# 導入に向けて

- ✓ 市区町村担当部署職員及び社会福祉協議会・地域包括センター職員などへの説明会の開催
- ✓ 関係者への操作研修会
- ✓ 集合住宅自治会や町会、民生委員への説明会とヒアリングを実施します。
- ✓ 民生委員や高齢者へのスマホ教室
- ✓ 地域コミュニティとしてつながる意識改革への勉強会。

安否通知システムの詳細の資料をご希望でしたらご連絡ください。

NPO法人エンリッチのゴールは、  
デジタル時代における一定の距離を保ちつつ  
人とつながるコミュニティ及び孤独死の  
早期発見が可能なツールとして  
自治体が主体となり、地域の方が広く無料で  
使える社会になること。

2024年4月号厚生労働省広報誌「厚生労働」への掲載記事

<https://www.enrich.tokyo/media/documents/pdf/kouseiroudou2404.pdf>

2024年7月16日放送BS11報道ライブインサイドOUT

【高齢者20人に1人！】「孤立死」しない生き方とは？に出演しました。  
集合住宅での導入事例の取材VTRも紹介されています。

<https://youtu.be/0KJD-iWIUIY?list=PLFv6b8aodEYVKc82U1H0LuQsKdwEILgO8>

NPO法人エンリッチの活動と実績及びメディア取材などは、こちらをご覧ください。

[https://www.enrich.tokyo/service\\_government.html](https://www.enrich.tokyo/service_government.html)

# 自治体導入への課題



- ✓ 窓口担当者に熱い思いがないと、協議の段階で政策推進課や福祉課（高齢者支援課、地域連携課）など各部のネガティブな意見で連携が調整できずに途中で頓挫
- ✓ LINE公式アカウント追加取得（すでに無料で公式を利用し、外部に運用委託している）ため、更に追加取得して有料での活用へのハードルが高い
- ✓ 「プラットフォームとして市民にツールを提供する」スタンスだが、見守り当事者になるのではないかという懸念が払拭できない。
- ✓ 社会福祉協議会や地域高齢者支援活動団体・自治会など多数の協力と連携体制が必要なため。
- ✓ 自治体特有の横並び体質のため、自ら進んで導入しようというスタンスがない（何処が導入？）
- ✓ 導入検討が長期化し担当者が移動となり、当初の想いやビジョンまで引き継がれないので白紙になる

# 運営組織

法人名：特定非営利活動法人エンリッチ

場所：〒133-0051

東京都江戸川区北小岩2-18-16

電話番号：050-3702-5355

加盟登録：内閣官房 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会員

ほっかいどう 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会員

協力団体：一般社団法人OSDよりそいネットワーク

一般社団法人地域コミュニティ振興協会

一般社団法人高齢者問題支援協会



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

独立行政法人福祉医療機構

令和3年度補正予算 社会福祉振興助成事業

主催:OSDよりそいネットワーク

共催:特定非営利活動法人エンリッチ



エンリッチホームページ

無料の見守りサービス開始以来、サービス利用者の中から延べ2,377人に7,988,745円の寄付を頂いて運営しています。  
(2024年7月18日現在)



孤独・孤立 対策  
官民連携プラットフォーム

代表理事：紺野 功

理事：大久保 英輔

理事：山田 洋輔

理事：中路 良恵

監事：成清 一夫

設立：2018年9月3日



<https://www.enrich.tokyo>



info@enrich.tokyo